

《初めてのお使い！》

2009年4月☆ インド出張5回目にして、今回は初めての一人旅～！（ちなみに社長は十数回…。社員一同が心配し、サプライヤーの皆様にも気を使っていたいただき、無事に戻ってこれました。本来なら『旅の間、世話になった某へ…』などと献辞を述べるところですが、出だしはこれぐらいで、さあ本題と行きましょう。

《市内の様子》

乗ってる車が坂道を走行中、ふと横を見るとパワフルな自転車 乗りが立ちこぎ中…。リヤカーつないで、エッチラ オッチラ こいでます。

あと、信号で停車中は、車の間をぬって物売りが…。雑誌や果物、エトセトラ～。ときには乞食の方が窓をたたくこともあります。政府の補助もあるため、ホンモノは ます おられません。

たいていは、ナワバリもちの方々。（ジヨジヨ第三部にも出た職業乞食）（一部はネパールに出張されているとか…。ネパール滞在中の社長の目撃談。）

本当に困窮し、仕方なく物乞いをしている方は、一目で分かるようで、われらがサプライヤーもお金を渡してました。(恥ずかしそうにスツ…と手を差し出す感じ)

道路は日本の首都高と同じくスモッグがありますので、密閉された車内にいる間とはともかく、使い捨てマスク持参をオススメ。(工場見学にも◎)

道脇には露店がチラホラ。ライムをその場で搾る(?) 屋台を見かけました。

そこらへんを歩いている牛、牛、牛…。誰が飼っているのか、たずねてみると、野良犬ならぬ、野良牛！ちゃんとしたものを食べてないとのことで心配です。

テリー空港の近くでは、第2空港を建設中…。あと2年で完成だそうです。(※2020年現在、とつくに完成してます)

以前に見かけたときも未完成でしたが、まあ急ぐとロクなコトがありませんな。日本が協力中の鉄道こと『メトロ(通称)』も、はしっこからジワジワ完成…。(※こちらも完成して久しいです)

全て完成したアカツキには、交通渋滞も緩和されることでしょう。超期待♪

(※地下鉄ホーム入り口にはバス停がありました。便利になりそう。)

《ゼイタクは、なんとやら - …。》

滞在中は、連日 取引先の事務所に通いどおし。移動時の疲労がバカになりません。渋滞が長びくこともしばしばで、急減速 & 急発進のダメージが地味に蓄積… (おもに腰のあたり)。これが地方へゆくともなれば、片道数時間はザラ (ホテル帰還は真夜0時以降!)。こうなると、ゼイタクは敵どころか『素敵』に早がわり…。飛行機で見たオバケイス (ビジネスクラス) にも得心。座席間隔も、エコノミーが一行9席なのに対して、ビジネスは7席と、地獄の沙汰もなんとやら~。靴をはき続けるのも意外とつらく、機内では行きがけに空港で父が買ってくれたスリッパがタイヘン役に立ちました (成田⇄テリーは約9時間半)。 (※近年、帰りは風に乗ってエンジン全開)

最近のインド国内出張 (テリー⇄地方) は、車で現地へ行き 現地のホテルに宿泊、翌朝 車でテリーのホテルに帰還がほとんど。飛行機に乗ってのトンボ帰りはナシです。ハイヤーの運転手さんの中でも腕

のいい方は、急減速や急ブレーキはマズなく、仕方ないときは「ブレーキング！」ってちゃんと警告してくださいませ。まさしく、疲労度が段違い！

《ホットなテリーは、ヴェリー・コールド…。》

テリーは4月でも暑く、そして寒い…。ハイクラスな場所ほど冷暖房完備が売りで、季節柄 ホテルや喫茶店の中はエアコンがガンガンまわっています。

レストランで見かけたジャパニーズやヨーロピアンは、半ソテでへいちゃらでしたが、さむがりな方はご用心。私はカーティガンとジャケット、そしてインナー上下のおかげで、体をひやさずにすみました（セーターはボタンがなくて調節がきかず、むれました…）。ちなみに今回の宿泊先はニツコウホテル。くだんの日本料理店『桜』において、オヒヤがわりにいただけるホットなお茶は、滞在中の精神安定剤としてもお世話になりました。めにめにさんきゅん



《2009年4月現在での相場》

1ルピー = 2円。ヒラの職工さんの日当が100ルピー（200円）。

一流ホテルのレストランで、コーヒー1杯250ルピー（500円）。

ガソリンスタンド、1リットル40ルピー（80円）。

（※石油価格は世界共通！ 経済的なトラクターは重宝がられています。）

英語が通じるわりに、ドルがショップで使えないのはフツーだったりします。

ほとんどがルピー立て。そうそう、ルピー札の束はナント、どでかいホッチキスでとめられています。道具もなしにはすすのは一苦勞…。穴が開こうが気にしないどころか、ときには書き込みがあったりと、なかなかオーラカです♪

『老山白檀』は落ち着きつつありますが、まだ予断を許しません。木製品のメイン材料『シーシャンウッド』は、今回25%UP！ 育つのに時間がかかる上、数も少ないため。すくすく育つ『マンゴーウッド』はあいかわらず。サイババ・ナグチャンパ香など『シュリーニヴァース社製品』は、香料のひとつ『ハルマンティ（川辺の泥）』が希少資源のためか、

常時 値上がり中。

《今は昔…。》

昔のボーイさんは、なんと無給！ 宿泊客の秘書をして稼いでいたそうです。『〇〇はどこに行けば手に入る？』『相場はいくら？』等の質問にもテキパキ答え、移動手段やイザというときの医者の手配も引き受けてくれるとなれば、相応の報酬を渡す気にもなるろうというものです。（とはいえ、一人で出来ることはタカが知れているため、手足となるヒラのボーイさんたちにもばらまきます。）

さて、時代とともにインドの商人さんたちも英語を習い、外国へ飛ぶこともシバシバ…。同時に情報の流通量も増大し、インフラも整備されてきました。

ボーイさんの給料もきちんと支払われるようになり、今では特に何かを頼むのでもない限り、チップはまず必要なくなりましたとさ。めでたし、めでたし…。

《ショッピングセンター》

万引き対策で、手さげのたぐいは持ち込み厳禁。とはいえ、買い物すれば袋に入れて渡されるわけで、

買い物袋は各ショップの入り口にいるガードマンさんが番号札と引き替えに預かります。(展示会用の音楽CDを購入。香、御期待！)(※2020年現在、手持ち無し。展示会で使わなくなったので、特価品として売っちゃいました☆)

空港すぐのところにあるセンターは、全長がなんと1キロ(ビルが複数合体！)。

入れば入り口すぐに、なんだか遊園地っぽい車が置いてある。てっきりオブジェかと思いきや、何やら英語で書いてあり…。その場で辞書を引いてみれば『お年寄りとハンテ持ちの方へ』。全長1キロだけあって、なかなか気が利いてます。

《しゅっこくチエキ!》

サプライヤーの方が気を使ってくれて、離陸の3時間前には空港到着♪

入口と内部には、今まで同様 警備の方が詰めており、チケットをもらいに行った窓口前では、一人がイスに座っておられました。(でん!とこしかけたその胸にや、マシンガンー丁ぶらさがり~♪ 字余り)

検査は日本のそれより嚴重…といたしますか、センサーが敏感！ 日本では反応しなかった内ベストのファスナー（金属製）にも反応。何が入ってるかたずねられたときは、つたない英語が通じず弱りました。

ジャケットも金属製のファスナーに加えてポケットが多いため、脱いで検査用のトレイに載せるようにいわれたほど。ご苦労様でゴンス。

《JALの飛行機》

前の座席の背中にはディスプレイ、座席脇にはリモコン（電話機とゲーム コントローラーも兼ねてます）。ゲームたくさん、映画も十数本、音楽もいっぱい。ひまつぶしにはコトかかず…ですが、映画は往復でほぼ見尽くしました。

さて、飛行機から降り、ベルトコンベアーの前で流れてくるはずのマイ トランクを待つことしばし…。待てど暮らせどやってこない。困惑して横を見ると、そちらは荷物満載！ あわてて行くといくらもたたないうちに発見しました♪

《現場の英語？》

インドの**第一**公用語はヒンズー語…。英語は**第二**公用語なのですが、外国との取引に必要なのはモチロン後者。でも日本語に方言があるように、多少はクセがあります。(日本とアメリカではエレベーターでも、イギリスではリフト！)

それが早口で言われるだけでなく、省略までされた日には聞き取れません。

『ワンチキン！ ワンチキン！』

はい。分かった方は、答えをどうぞ。

『おばちゃん、フライドチキン一個！』

ブブー！ 不正解。正しくは…、

『ワン チェツキング ニード (一度、チェックする必要がある)。』

ただでさえ、英語は早口だと直前の発音次第では、まったく別の言葉に聞こえる言語。ときには、前後が逆さまに聞こえたり…。

車内にて、『寒いからエアコンの風をなんとかして～』と頼んだときのこと。

ウインド (風) とウィンドウ (窓) を聞き間違えられ、窓がフルオープンに…。

Σ(-o-)がーッ！ 同じ風でもブリーズ（風）のほうが一般的だとか。生涯学習！

《マナー》

握手も食事も右手なのは、どうやら左手をトイレで使うからみたい。

ハイクラスな場所ではトイレトペーパー完備（洋風）ですが、それ以外ではまだまだ…。念のため、水に流せるティッシュの持参をおすすめ。サプライヤーのご家族への挨拶は、両手を合わせてにっこりスマイル☆ 頭を下げながら『ナマステ〜♪』お相手が年配の方なら、しゃがんで足をさわることで敬意を表すのもOK☆ エスカレーターの乗り方に関しては、まだルールが確立されていない模様。ヨーロッパは関西と同じで『ふだん右・急ぐとき左』だそうです。

《コンテナ サウナ、シリカゲル。》

海上コンテナ便の欠点…。それは、内部がサウナと化すことです。この辺は『インドお香・いろいろ その1』に詳しいのですが、高温で揮発した水分は商

品に付着してカビやサビの原因に…。木製品にいたっては湿度の吸入排出で変形！

そのため、最近では商品一個ごとにシリカゲルをセット。ただし、同じシリカゲルでも高性能でないとダメ…（ズバリ、高価でしょう！）。ある商品に、高いのと安いなの両方が使われていて、安いのが入った商品だけがカビてました。

（下手をすると、湿気を吸収したシリカゲルにふれている部分がカビたりサビたりします。）

あと、ダンボール箱の内側にビニールシートを敷くのも、湿気対策として有効！ 箱が多少 雨にぬれても、へいちゃら♪ コンテナの天井に穴が開いてて雨漏りしたときや、日本国内で輸送時に土砂降りの雨にさらされた時は、随分マシになります。

余談ですが、日本では高品質であたりまえ一な、ビニール パッキングもインド国内では高級品を製造しておりません。必要なときはワザワザ外国から輸入しております。わが社のジュートバッグやTシャツも、高級感を出すためにフランス製でパッキング♪

《接待》

向こうへ行くと、必ずいくどか接待されるのですが、そうとなれば、コチラも一度は招待するのがマナー。国内なら自宅か料亭ですが、訪印時はたいてい宿泊中のホテルのレストランです。その際、ゲストに不自由させないよう、店側に気を使っていたかくかわりに、後でチップを渡すのもホストのマナー。

ちなみに、高級クラブ（料亭）に招待されたときは前菜に注意！ けっこうなボリュームでメインティッシュと勘違いするほど。存分に食べた後で「ステキなディナーをありがとう♪」と伝えると、「今のは前菜です。」というオチが…。

国内での料亭接待では、事前にダメなものを聞いておき、コースメニューを一部 変更してもらったり、なれない箸の代わりにフォークやナイフを用意してもらいます。（同じ宗教でも宗派がイッパイ！ 肉はおろか卵もダメだったり…。）

《各地の気候》

熱帯から亜寒帯まで。世界の植物 8 割が自生するインドは、とてもひろ～いお国柄。気候や土壌などは

地方ごとに異なり、私どものいう雨季（6～9月）も、あくまで お香の工場などがある地方のソレ。

弊社が白檀グッズの原料は基本、マイソール地方産ですが（※ノーマル・クオリティだと飛び地の産を使われていることが有り）、他の地方産では いわゆる香木としての（効能付きの油を含んでいる）白檀が育たないからです。

いまや廃盤となった蚊避けお香『シトロネラ香』…。ケミカル殺虫剤からナチュラル蚊避けへ移行したアメリカでは、コンスタントな売れ行きだそうです。

インドの蚊はしぶとく、ナチュラルは通用しなかったため、強力なやつを持参。

結局は使わずにすみましたが、これが地方のホテルだと違っていたかも…。

もっとも、気温が40～45℃となる季節には全滅するそうです（ハエは平気）。

《におひ、そのまたの名をかほりとゆふ…》

え～、国といいますか、地域には特有のにおいがあります。

私のかいでみたところ、インドのは香辛料っぽいやつでした。日本のは味噌や魚、醤油の香りだそうで、外国からお越しの方にイヤがられることも…。

病気の際はふだん平気なものもダメになりますが、外国を訪問している間は生存本能が刺激されるのか、センサーの感度がよくなりすぎるようです。

私も風邪をひいたときは某バーガーの油臭に耐えられず、食べることを断念…。しかし、回復後はなんともなく、平気でパクついてます。

弊社 小売り部門（ぶっちゃけて言いますと、ショールームを兼ねたショップ スペース）にご来店のお客さま いわく…『いい香りですね～、なんの香りですか？ この香りのお香をください♪』

店内の香りは様々な香りがミックスしたもので、そのリクエストにはお答えしようもなく。それ以前に、連日 出社する我々の鼻は、とうにそれに対して鈍感になっておりまして、いわばとうにマヒ状態。はたしてどんな香りなのやら…？（※2020年現在、我々が働いている新社屋では、基本、小売りは やっておりません。事前連絡があって買う物が決まっていれ

ば別ですヨ～？)

つまり、地元の方は忘れてるけど、たしかにそこにある…。

そんな香りが、日本に帰るころには衣服と体にしみついております。『慣れてくるとそれほどでもない』とは、インド訪問歴・十数回となる御大の感想…。

《ぐり～ん ぐり～ん♪》

インドは、緑が貴重なお国柄～☆ 森や湖なんて、そりゃあ大事にされてます。観光スポットとしても人気で、ピクニックに招待されたときは、あらためて日本は自然が豊富だなあと実感した次第。(昼食は、なまじ外食するより安全と言うことで、サプライヤーの母君の手作りチキンサンド☆)

花も高価な贈答品♪



かたや、大きな川がづらぬく、ゆるやかで乾燥したインドの大地。かたや、小さな川がたくさん流れる、起伏に富んだ湿った地、日本。

どちらも一長一短ですが、生まれ育った地に体がなじむのもまた事実。なにしろ、《水に当たる》というぐらいで、水にはその地の微生物や細菌などが含まれてますからね。他所から旅してきて、水を飲んだだけでやられてしまう、というのはよくあったそう。

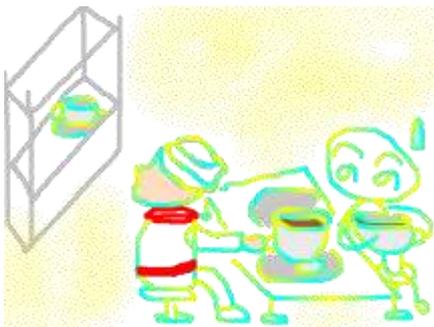
お茶やコーヒーのような『毒消し』は昔からの知恵ですな。(水がおいしくないところは『味消し』も兼ねるとかで、アメリカの珈琲はメツチャ薄いそう)

私たちもインドで2～3回ダウンしましたが、来日されるインドの方も一度はダウンするようです。(※国籍に限らず、なぜか平気のへーざな方たちも！)

送り出す家族のほうも気が気でないわけですが、国際電話の通話料が高くて、とてもじゃないけど長話はむずかしい。もともと、円高差益を利用した商売なわけで、滞在費用もメチャ高。なかには食パンとマーガリンが食事の猛者も…。食材持参で調理場付きのホテル東横インに宿泊する方もおられました。

《コーヒーはコッフィー、カフェーは喫茶店～。》

世界的に一般的なコーヒーですが、どうも日本のそれはインドのそれより『濃い』ようで、来日されるサプライヤー様には、そのつど要望を聞いております。



余談ですが、アメリカ資本の喫茶店でコーヒーをおごっていただいたときは、カップのサイズがスープのおわんほどもあってびっくり。店員さん

さんに『Sサイズをください』と頼むと『今 お出ししているのが、Sサイズです』とのこと…。

みんなでおどろいているとショーウィンドウのほうを示され、見ればさらに大きなカップのMサイズとLサイズが…。

《専門用語》

スキマ産業として そのときどきの流行ものを輸入している身としては、その業界での常識や『専門用語』がまったく分かりません。あるときは本を買い、あるときは知り合いの業者さまに教えをこい、またはあるときは辞書を引き引き…。輸入手続き代行 会社には英語の出来るお方がおられますので、そちら

にお願いして尋ねてもらったりもしますが、それでも分からないときがママあります（※ふだんは電話や文書での催促や事実確認をお願いしております）。

あるとき 苦労したのが、『ペーパーマーシ（paper mache）』の香皿です。

Q『この香皿は、何を使って作られていますか？』
→A『ペーパーマーシです。』

辞書を引いてみて出てきたのは、なんと《張り子》…。日本でよくある 竹の骨組みに紙を貼り付けたものを連想して困惑し、再度たずねてみると『紙と粘土を混ぜ、日光で乾かしてからペイントしたものです。』とのこと。

どうやら あちらで《張り子》というと、針金や木板などの骨組みに、粘土で肉付けしたものを言うみたいです。粘土は乾くとヒビが入るため、ツナギとして紙の繊維を混ぜるんだとか。一件落着～♪

《いとも高きは、金物なりけり…。》

さて、ブームにあやかり 発注してきました☆ ガネーシャグッズ♪ タペストリー（一部はロウけつ染め）に、お香立て（ミニ ガネーシャ像つき）に、いわ

ゆる真鍮像…。

真鍮と言えば、北京オリンピックでの金属暴騰も記憶に新しい今日この頃…。

ここにきてようやく値下がり始め、泣く泣くCLOSE（断念）していた企画を再開！（ブラスベル・SとLは、高くてもイイ！との要望でなんとか続投）



さて

さて、真鍮像こと『ブラス スタチュー（BRASS STATUE）』の外観4種類…。

左から、①無地 ②黒ずみ加工 ③銅メッキ ④銀メッキ（↑の商品は一部だけ）とございまふ。高級そうだからか、②黒ずみ加工が一番人気とのこと。

（これらは、正式な呼称ではありません。あしからず…。）

さてまた、最近 オミヤゲとして人気の ④銀メッキ像。メッキの下はトーゼン、①無地のはずですが、高品質な真鍮の高いこと、高いこと…。

トーゼン、消費者サマは安くないと買わないわけで、売れない高級品を作るよりはと、どうせ見えな
い下地は低品質ですませてしまう業者サンも…（費用対効果！）。残念ながら、後でサビてきます（メツ
キはチョコット費用が必要）。

《身内自慢》

以前 紹介した工場も働く人に気を使っていたが、われらがサプライヤーの直営工場もなかなかのもの。見学すると、ちょうどお香の袋詰めの中で、
香りがプンプン…。しかし、いくらいい香りでも《過ぎたるは及ばざるがごとし》。心配してたずねてみると、『大丈夫、換気扇をたくさん設置してあります。』
とのこと。見ると左右の壁の上、けっこうな高さの天井近く、ファンがファンファン回ってます。香油のついた手で肌に触れるとよくないことも話すと、
『手を洗う場所も設けてあります。』とのこと。さすがプロ！

‘09年9月吉日 第0刷発行 記事：平野 茂平次

監修：Dr. ダン・ヘンケン

※記事内容は不正確なモノで、独断と偏見がた

ぶん(に?)含まれます。

著者来歴

平野 茂平次 (B. C. 5000~)

紀元前の中国 農村部で、案山子（かかし）として誕生。筆ぶしようなのか、思い出したところになってから執筆活動を行う。

D r . ダン・ヘンケン (A. D. 2030~)

自称 博物学博士。動物語がしゃべれるとか、しゃべれないとか…。曰く、『人は主観的な生き物で、その意見は独断と偏見に満ちている。』んだとか。